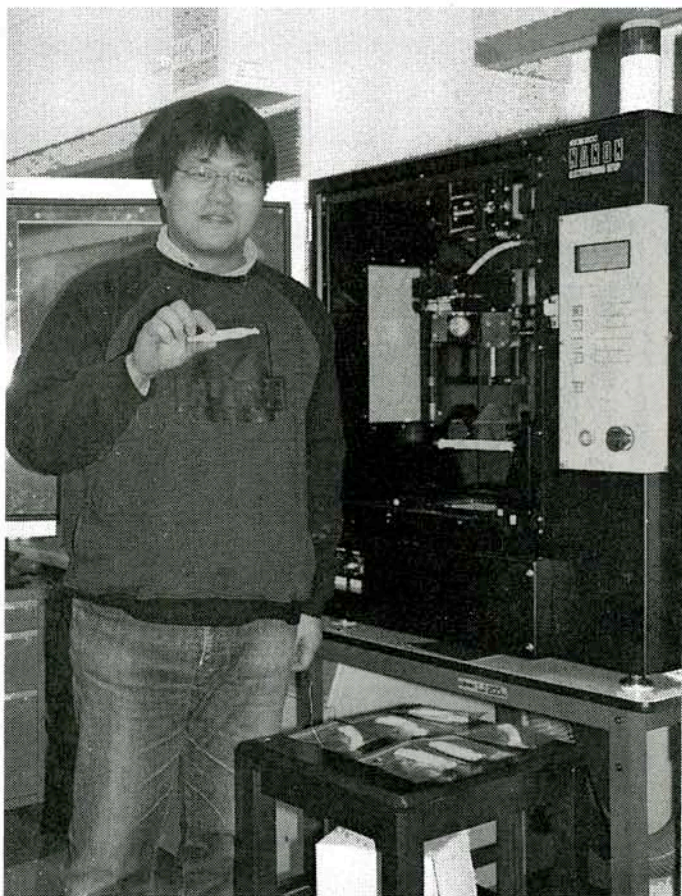


先端医療 トライセよ

同大ラグビー部元監督・圓井さん



同志社大ラグビー部の元監督が、新しい人工血管を研究開発するプロジェクトのリーダーを務めている。大阪市内の繊維機械会社専務、圓井良さん(44)。同大の現役時代は、日本代表で現神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネジャー(GM)の

平尾誠二氏(44)やタレント活動でも知られる大八木淳史氏(45)らとともに史上唯一の3年連続学生王者に輝いた。ラグビーで培った協調精神で「チーム」を束ね、医療分野にトライ。

(小松幹幸)

新たな人工血管製造に使う装置の前で試作品を手にする圓井さん

07年度までの2カ年で計5000万円が交付され、すでに試作品を動物に装着した実験がスタート。近い将来の製品化も視野に入れている。

このプロジェクトにかかわる関西医大や京工織大、立命館の間を取り持ったのが圓井さん。

約6年前から京工織大の社会人大学院生の圓井さんは、工芸科学研究所で繊維関連の伝統技術を新たなモノ作りに応用する道を模索してきた。そんな中で新規医療器具の開発に携わる関西医大のスタッフとも知りあった。立命館側にも産学官協同を推進する部署があり、同大ラグビー部の後輩がいた。こうした経緯からリーダーを任せられ、試作品を作る機械は圓井さんの会社と京工織大が開発した。

厚労省によると、年間人工血管の国内生産、輸入額は04年で約70億円。前年比約60%増とな

大八木淳史氏の話 「スポーツ経験者の社会貢献が増える中、新たな道を切り開いたな、という感じ。地味だが基本に忠実にコツコツと努力してレギュラーをつかんだ昔の彼(圓井さん)の姿がダブる」

っている。食の欧米化や高齢化社会が進むに伴い、動脈硬化などを抱える人の増加が背景にあるという。

こうした現状を知るにつけ、圓井さんを突き動かしたのはラグビー精神でもあった。「ラグビーでは、選手が助け合ってトライを目指す。同じようなチームワークによる達成感がある人工血管プロジェクトに魅力を覚えた」

同大のV3は1984年度、平尾氏や大八木氏ら傑出した選手を「ボクらは縁の下の力持ちだった」という圓井さんらから地道なプレーでしっかり下支えした結果だった。圓井さんは2001年度まで3年間の監督時代も、根強い指導で同大を全国4強に2度導いた。そんなラグビーの経験が大きな支えになっている。

「やりませ。前進あるのみです。穏やかな口調のなかに、突進する意気込みが伝わってきた。



3年連続学生王者に輝いたこの同大ラグビー部。後列右から2人目(指をさしている選手の手)に現役時代の圓井さんの顔が見える。前列で盾を持っているのは平尾氏

プロジェクトは、関西医大や京都工芸繊維大、医療機器メーカーなどが連携して進めている。新しい人工血管は、ステンレスとポリエステルを細かく編み込んで管状にし、極細のポリウレタンを巻きつけた構造の試作品をすでに作製。既製

の人工血管や内腔の支持具に使われている材料をば、心疾患や動、静脈瘤、関節部の治療などが進む可能性があるという。複雑な血管構造

に対応できる幅が広がれる管理法人とし、今年官の協同による新産業創出を目指す「地域新生コンソーシアム研究開発事業」に採択された。20

「人工血管」共同開発率いる